

# pen

with New Attitude

6/1

2011 No.  
定価 600円

## 未来へつなぐ デザイン



## 職人の技を、国際舞台でPRする意義とは？

デザイン：コンスタンチン・グルッチ、職人：陳高明による竹製椅子「43」。陳は1958年生まれ、台湾の竹工芸の重要人物。カンチレバー構造を用いた。www.yiidesign.com



鉛色の板がしなやかに曲がり、堂々とした一脚の椅子を形づくっている。今春、ミラノ・サローネで出合った、なんと存在感のある椅子だ。添えられた説明文には、デザイナー…コンスタンチン・グルッチ、職人…陳高明と記されている。よく見ると、その会場では一つひとつの家具やオブジェについて、デザイナーの名前に並んで職人の名がすべて明記されていた。

## その伝統の「技」なくして、生まれなかった構造美。

これは台湾クラフト研究所が主導するデザインブランド「Yi-i」の展覧会。デザイナーと職人を結びつけ、ものづくりを活性化することを目指す。2007年にスタートしたブランドで、現在はドローク・デザインの創立者でもあるハイス・バックナーをクリエイティブディレクターとして迎え、台湾のデザイナーを中心に、海外デザイナーも加えながら活動を続けている。

冒頭で紹介した椅子の名前は「43」。43本の細長い竹の板が示す力強い構造美は、グルッチのデザイナーとしての造形力と、陳という竹職人の技がなくては生まれなかった。卵殻磁器の「ブラステック・セラミック」シリーズも同様だ。デザインしたのは1986年生まれの若き台湾人デザイナー吳孝儒。卵殻磁器という特殊な焼き物に秀でた職人、李存仁が制作。吳は使い捨

て用皿の模様を、繊細で極薄の磁器に施しエレガントな空気を与えている。

さらに伝統技術を、現代的な素材に应用するという大胆な試みもあった。日本のデザインスタジオ「nendo」は、台湾の竹職人とやり取りを重ねながら編み方を発展、管状のスチールにしなやかさをもたせて、軽やかな椅子「バンブー・スチールチェア」を誕生させている。いずれも、技があつてこそプロダクト。Yi-iは実に高度なコラボレーションの実践例だ。

モノづくりにおける職人の技術の重要性は、これまでも語られてきた。だが、そのプレゼンテーションについてはどうだろう。台湾クラフト研究所は台湾政府下の一組織として活動している。つまり、職人の技術を、政府が支援してサローネなどの国際的な舞台で披露しているのだ。これにはふたつのメリットがある。ひとつは台湾のデザイナーとクラフトのレベルアップ。ふたつめは海外のデザイナーやメーカーが台湾の技術力に着目、新たなビジネスチャンスが開拓できるという点だ。

台湾クラフト研究所は台湾に展示スペースを備えたビルを新築、海外のトップ・デザイナーとの新作も進めている。クラフトは特定の地域で囲まなくていいのだ。Yi-iは易経の「易」に由来する。変化・変革を意味する語だ。新しいクラフトの時代は、すぐそこまで来ている。



デザイン：nendo、職人：邱錦雄による「バンブー・スチールチェア」。会場：デザイナーもnendo。



デザイン：吳孝儒、職人：李存仁による卵殻磁器ブラステック・セラミックは捨てるほど簡単。

Design for the Future